

第 15 回 図書館建設運営委員会 全体会

日 時 平成 21 年 3 月 12 日(木) 18:00～20:00
場 所 公民館 講堂
出席者 専門部会委員 10 名
ナスカー級建築士事務所 八木氏
市川教育長、富岡参事、山岸 GL、竹内公民館長、
花井館長、小林（文）、田中、松谷
職員プロジェクトチーム 3 名

議事録

1. 開 会
2. あいさつ
3. 事務局からの報告

(事務局) 図書館で行われている電算化の作業についてご報告をいたします。データ化入力作業の前準備として、図書のカリーニング作業や分類、蔵書整理などを行っています。たくさんの町民の皆さんに手伝っていただき現在進んでいます。また、電算化に必要なバーコードの貼り付け作業についても、図書館、システム委託業者を中心に 2 月 23 日から作業を開始しています。実際のデータ入力作業については 3 月 9 日から入力を開始しており、バーコード貼り付け作業と平行して進めている状況です。当初の予定通り 5 月末頃までにこれらの作業を完了したいと思っております。報告は以上です。

5. 会議事項

(委員長) ありがとうございます。会議事項に入ります。

会議事項はご覧の 5 項目を話し合いたいと思います。もう 1 枚の資料をご覧ください。今まで過去 3 回、去年の 12 月ぐらいからポツポツ出ていた話題、テーマを整理してみました。今日議論して決まるものもありますが、これから実施に向けて部会、プロジェクトのようなものを作って具体的に詰めていくようなテーマもあります。いずれにしてもとても大事なことです、一つ一つやっていきたいと思います。活発なご意見をお願いします。

- ・選書について

まず、選書についてですが、以前から、館長から選書委員会を作っていくか、組織としていくかについて投げかけがありました。具体的なたたき台もないままにずっときていたので私のほうでこのようにまとめてみました。現状は、毎週火曜日に図書館職員と準備室でミーティングし、選書を行っているということです。今後のあり方として、選書委員会ですが、館長ほか図書館職員、そして住民として、例えば絵本の会とか、ビジネス系の人から 1 人、医療福祉系の人から 1 人、教育関係から 1 人、今別立てで動いている町づくり委員会の視野の広いところから 1 人というように各分野から出ていただくと。委嘱については館長が行うと書きましたが、町の慣例や規則として、館長の立場でそういうことができるのか、そのへんをまた教えていただきたい。任期は 2 年として、再任は妨げないが、半数以上は入れ替えをし、新しい視点の導入を行う。公開ということでは選書の視点、どんな図書館にしたいかという視点を公にする。その結果は図書館に掲示したり、広報で知らせたりする。また、情報の交換ということで今後図書館の運営について、運営委員会ができるとすればそういったところと年に 1~2 回意見交換をもって選書に反映させる。希望図書を受け付けたり、採用、不採用の理由もできるだけ明示するというような…。本当に私、図書館の知識もないですが、このようなことをたたき台として示しました。これについて専門の方、住民から意見いただいて、できれば今日の意見を踏まえて準備室のほうで案を作り練り上げていったらどうかと思いますが、いかがでしょうか？

(委員) 選書については選書委員会を 7 月の開館に向けてなるべく早く立ち上げないと。この内容でいいと思いますが、住民の中から公募でお願いする方も何人か入れたらどうかと思います。

(委員) これは今日、たたき台を意見交換して決めていくということですか？

(委員長) 今決定はできないと思いますので、できるだけ多くの皆さんのご意見いただいて、準備室のほうで反映していけばいいと思うんです。

(委員) 何回かの話し合いとか、そういうことではないんですね？

(委員長) いや、必要ならしていいと思います。

(委員) 選書のあり方ということに関して私は知識がないんですが、今言っているのは、どの位の期間での選書ですか。単年度選書か、何年かにわたる選書か…。

(館長) 先日から毎週火曜日に図書館と準備室でミーティングをしています。そこで、書店から持ってこられた本や、自分が見つけた本を紹介して選書しています。選書委員会が実際稼働してくるとなると、3~5 年計画でどういうふうに変えていくかを議題に載せていくことも必要だと思います。ただ、今は選書委員会の会議だけを待っているという時期でもないなので、持ってこられた本の中からや、足りないものは、司書さんたちと一緒にどんどん入れていくようにして

います。選書委員会の会議はできれば早めにスタートさせて、どういうものを、一部北斎がらみとか栗とかありますけれども、受け付けはどうするかなどという議論になっていくと思います。そういうところを皆さんと進めていくのが選書委員会じゃないかと思っています。

(委員) 町づくり委員会というのは別でやっていることですが、交流関係の会議をしていただいている、町内の団体が200ぐらいある。そういう人たちがどしどしこういう場を活用してということが考えられるので、そういう方々にも声をかけて…。

(委員) 小布施の図書館としてオリジナリティを持った選書というものをきちっとさせるべく、選書委員会の中で方向性を、ここで言うように北斎なのか栗なのか、とかいうのは早急にやるべきだと思います。委員さんは核となる人を何人か決めて、それを運営していく中で、委員会の中でもいいですし、それ以外の人も入れるなり、或いはそういう人たちの意見を聞く場を設けるなりという形で進めていけばいいのではないのでしょうか？

(委員) 絵本の会からも入れていただければ、メンバーをほぼ決めております。それと、あまり大勢になってもかえって大変かと思しますので、やはり、いろんな方から要望とか意見をお聞きしながら核になる方を決めて、それで詰めていったらどうかと思います。

(委員) 今まで選書はどういうふうにされていたのですか。

(職員) 今までは大体窓口の流れを見たりして主に決めていました。公共図書館の場合はすべての人にすべての情報をとということがありますので、特にこれはだめということもなくやっています。ただ、文庫本や漫画など、そういうある規定の、これは買えませんというものはありましたけれども、大方は他の図書館から取り寄せたり、購入したりしていました。窓口で聞かれることも多いので、そういったことに答えられる資料を揃えたり、ある年には非常にビジネス系の人が増えたので、そういうものを中心に選書したこともあります。窓口にいるスタッフと館長さんとみんなで行っていました。以上です。

(委員) ということは今までは委員会というのはなくて、ということですね？

(職員) そうですね。昔、協議会で好きなものを選んでいいですよということもありましたけれども。

(委員) 他の分野に関してはわからないんですけども、絵本に関してはプロの知識のある方にも入ってもらったほうが良いような気がするんですよね。絵本の会にも知識をお持ちの方がいらして、その方は勿論ですが、絵本に関していろんな知識を持っている他の図書館の司書さんとか、そういう方の意見も定期的に聞いたり、よその図書館はどういうようにしているのかという情報も知りたいとは思っています。

- (委員長)　すごく大事なことだと思うんですが、町民で構成するとすれば、そういう人が町内にいなければ、定期的にそういった方々をお迎えして指摘をいただくとか、そういうのもいいと思っています。
- (館長)　図書館づくり学習会の時に読書アドバイザーの小林いせ子さんに来ていただき、皆さんも勉強された経緯がありますよね。例えば、そういうふうな職業をやられているイメージですか？
- (委員長)　同様にビジネス系も、中島先生という信大の経済学部の先生が関わっていらして、時折中島先生の話を書くっていうのもいいなど。これは是非明記して、委員会に引き継げたらと思います。
- (館長)　すいません。さっき公募の話がありましたが、例えば公募何人ぐらいとか、そういうイメージはありますか？
- (委員)　全体で何人ぐらいの方をこの選書委員会の中に含むのか？今、5人くらいですよ？そこでやはり3人くらい公募が欲しいなというのはあります。
- (館長)　これも、実際選書まで関わっていらっしゃる方がいると思うんですが、茅野市は図書館ができる時に、選定委員会から、運営委員会が作られて、選書も資料に載せるそのメンバーの中に高校生も入ったりするんですよね。あとはここに書いている医療機関の人とか。プロの人の話なんかの意見交換会に行ってもいいのかなあ…ということを思っています。
- (委員長)　ありがとうございます。例えばですけれども、絵本、ビジネス、福祉医療、教育で4つになりましたね。そこまで委嘱をして、残りの3人ぐらいを公募にする形とか、大体多くて7~8人ぐらいを住民の代表というニュアンスで考えるという感じでいいですかね？では今のご意見を受けて、館長の方に引き継ぎますので、次回までに。
- (公民館長)　初めて出させてもらったんですが、この4つの分野、絵本の会から始まって町づくり委員会や既存の会はなんとなくわかるんですが、ビジネス系、福祉、教育系と入れたのはどうしてですか？選書については司書の方は総合的な、或いは出てこられる方も当然特定の分野だけではなく総合的に、例えば、教育系であっても歴史に興味あったり工業その他いろいろ分野あると思うんですけれども、そういった中で特にいろんな会や町づくりが町の中で必要だというわけでこの分野だけ挙げたのはどうしてですか。
- (委員長)　世の中を見たときに、大体こういう形で分ければ大雑把にいいのかなと思って、それ以上の知識はなくて言っているのもう少し明確な分け方があれば。今も歴史という言葉がありましたが、歴史なり、地理と混ぜるとか、そういう分け方にした方がいいのか、ご助言いただきたいんですけど。
- (公民館長)　私の勝手な意見ですけれども、確かに特定の分野のところから出て来る方があってもいいと思うんですが、図書の出版というのはいろんな分野があります

から、そういった面で総合的に判断できる方、ということになりますと、司書さんはその中の優れた方だと思います。そういう意味でいろんな分野があると思うんですが、ということです。

(委員長) 司書という仕事そのものが、本を選ぶということも大事な役割として勉強されている方々ですし、その方々が専門でいらっしゃるの、あとは住民の中から、5、6人できるだけ全分野に網羅できるよう人選をする努力をして、というような感じでいいですね？ ありがとうございます。任期も2年と一応書きましたが、全員が2年後に全く新人になるというのもどうかと思いますので、1年ぐらいずらしてやるとか、そういった工夫を出してもらってもいいですね。

・館の名称募集

(委員長) では館の名称募集について。これも1月ぐらいから正式な館名とは別に、ニックネームのかたちで募集したいということでもいただいていたのですが、特に今のところ皆さんからの案は出ていないようです。ですから決め方について、是非準備室として発表していただきたいと思います。公募して当たったら嬉しいですけど、お金がないということを考えると、図書券5,000円分とか、あるいは命名者の名前を図書館のどこかの壁に刻んでもらうとか、そんなようなご褒美があるといいのかなと。ほんとに私の発想で貧しくて申し訳ないんですけども。

(館長) (ホワイトボードで説明) たたきとして今考えているのは、1回で終わらせる方法と、2回で終わらせる方法です。簡単に書きますと、1回で終わらせる方法は、1ヶ月ぐらいを募集期間として、応募の中から1つを選ぶ。審査員が決定するやり方。もうひとつは2回やる方法。いろんな事例を調査したんですけども…。募集して、100個なり来る。まず、ここで審査をする。その中から5個ないし10個ぐらいを選ぶとする。これに対して町民による投票で、ひとつを選ぶ。こういうやり方も他の博物館の名称決定や別の自治体でありました。時間がかからないのは1回で終わらせる方法、ひと月で終わります。今日ちょっと考えていまして、時間がないとすればこちらもありかなと。他に皆さん意見があれば、聞かせていただきたいんですが。こちらは、多分須坂動物園のカンガルーの場合と一緒に、全国公募。ただ、これで、1回目で全国公募になるんですけども、2回目最終的に町民しか投票できませんということになれば、ちょっと時間はかかりますが、町民の方が選んだ感というのは出るかなあ。あとは、決めなくてはいけないのは応募方法で、はがきなのか、FAXなのか、E-mailなのかというのが出てくるんですけど。特にこのへんと、他の方法があればというところを議論していただきたい。

(委員長) この1回で終わらせる方法の審査とは投票で決めるということですか？

(館長) 審査委員会を作るべきだと考えています。建物の役割とか、運営からいけば理念があって4つの柱があって、設計者がこういう気持ちで建てたんだというものもあると思いますし、総合して審査する審査会は必要なんじゃないかと思えます。ただ2回のほうは審査員だけが決めるのではなくて、審査員がある程度下準備した中から、投票。そして1等賞取った人は名前をどうなんだろうっていうやり方ですね。右側は審査で決定していこうというやり方です。

(委員長) いつまでに決めるのが理想なんですか？

(館長) 決定はできれば5月には。今シュミレーションしているんですけども、5月の中旬ぐらいまでにはあらかた決まってないと他のことに影響してきます。最終的には議会で承認をもらわなくてはいけないので、これで行きましょうと提案するのは遅くても5月の中旬ぐらい。だから、1回でやる方法だと早く決まりますね。

(委員長) どうでしょうか？これで準備して公募を始めるのが4月の…。

(館長) そうですね、これでやり方を皆さんで議論してもらって、できれば今回の町報でもう募集をかけたいと。そうすると、ひと月ぐらい皆さんに考える時間を持ってもらえると思うんですね。そうすると次の町報で発表か、ぎりぎり審査があるかと思えます。ちょっと2段階の方で心配しているのが、やっぱり2回目出てきた時に逆に審査会が落としたら、この人たちが持った思いが壊れてしまうんじゃないかなということ、それだったら、1回で終わらせてしまうパターンもあるのかなと。いろいろご意見を聞かせてください。

(委員) ちょっと私感違いしているのか、最終的に議会で承認とおっしゃったんですが、正式名称と愛称という問題があると思うんですけど。

(館長) 愛称でも、1回決めてもあまり使わないということだと意味ないですよ。それで、あらゆるものに使っていくとなると、条例が絡んでくる。正式はあるけれども、愛称がどんどん表へ出て行くようになると、条例がやっぱり必要になります。だから、最終的には議会提出が必要になります。

(委員) 私は2番目の2回やる方法。たくさんの中から絞り込んで、絞り込んだものを町民の皆さんが投票するという方法が、多少時間や手間がかかるかもしれないけれども、その方がいいのではないかと。経過が皆さんにわかると思います。

(委員長) 2回やっても5月中旬にはできますか？

(館長) 頑張ります。

(委員) 正式名称というのは決まっていらないんですね？

(館長) 正式名称は小布施町立図書館だと思います。

(委員長) すみません、私が質問しちゃいけないんですけど、小布施町立図書館という名称そのものを、正式名称も募集する方法はないのかなあと思ったんですけど。例えば、小布施町立交流図書館とか。そういったことは全くなく、町立図

書館でニックネーム募集という。公的名称は確定ということですか。

(参 事) 果たしてこの図書館の正式名称をどうしていくか…。利用される皆さんが親しみを持って使おうということで、今回愛称募集になるんですが、一般的に施設そのものとしては町立図書館。管理運営条例なりそういう言い方をしていますが、その点含めて愛称だけでいくのか。やっぱり、どなたにもわかるという考え方からいきますと、町立図書館という正式名称があって、普段は愛称として利用するかどうかということがあると思います。

(委員長) では正式名称ではなく、愛称募集ということで、2回の段取りを踏んで5月中旬には愛称決定ということで、町民向けに3月の町報に流す。それからインターネットその他マスコミに全国公募で。それから、審査員はどうしたらいいでしょうか？今は全体会と幹事会、殆どメンバーが一緒になっているし、こんなに一生懸命出て来てくれる人がいらっしゃるんだから、敢えて審査会を振る必要ないと思うので、ここに10人20人増えたら増えたでその人たちも含めていきましょう。投票で決めるのか等はその時に決めましょう。

この100から10なら10にするという審査会は、全体会として位置付けるということでお願いします。

(職 員) 最終決定を投票に委ねるといのはどうですかね？頑張って考えてこられた皆さんが、最終決定の前段階でといった場合にそのへん。

(委 員) 要するに、審査会の中ではこの辺がいいんじゃないかと思ったものが、実際に投票してみたら、全く違うという可能性。それも挙げたものの中のひとつであるけれども、ここに集まった人たちの大半がいいと思うものと町民全体がいいというものと、違いが出てくる可能性がある。そういった場合に、せっかく今までやられた人の思いが反映しなくなるという、そういう意味ですよ。それなら投票の点数で、審査員の持っている持ち点数を10倍なりにしておくとかあるような気もしますが。その辺の具体的な手順については今ここで決めるところまでは行かないような気がするんですけど。

(委 員) 審査の段階で皆さんから入ってきたものを審査しますね？その時にここにいる皆さんが、どれが選ばれてもいいという考えを持っていれば別にいいのではないかと。だから、10個なり5個なりを投票してもらおうとしたら、そのうちどれが選ばれても納得しているものが入っていればいいんじゃないですかね？

(館 長) では、2回の審査をして、投票に委ねるとい形がいいということですね。

審査に関しては全体会でやります。選考されて最終に残る数はこの段階では限定しない。告知は町報、わくわく通信、ホームページに出し、マスコミにも流すという方向で。町民の方の投票について、こちらでもいろいろ考えていますけれども、無人の所へ投票箱を設置して誰でも何でも入れていくとわからなくなってしまうし、基本的にはどこか場所を設けてやることになると思います。

(参 事) 今の話の中で気になったんですが、ここで運営委員の皆さんが 1 次審査をされるということなんですが、例えば、住民の皆さんのそれぞれの思いの票が、名称が出てくるわけですよ。それをどういう基準で審査したかということが非常にあとで問題になると思います。もしやるとすれば審査という形ではなくて、1 回募集かけてその上位何点かをもう一度皆さんのご意見をお聞きして 3 点なり、5 点なりから 1 点選びたいという形じゃないと、審査の基準なり、そういうものが後で問題になってきませんか。

(館 長) そうですね。

(委員長) この経過を知っている私たちはこの図書館の在り方を知っているんですけど、今建設中の写真とか、パーツとか、4 つの機能のこととか、小布施における位置のこととか、できるだけ遠くにいる人でも想像が膨らむような素材が、募集するときにはホームページにも必要なと思います。

・開館行事について

(委員長) 続きまして開館行事等について。開館が 7 月ということですので、あと 3 ヶ月、約 100 日しかないんです。それで、開館したその日とは言わないと思いますが、できれば開館して 1 ヶ月の間に、開館を記念する町民向けのイベントをしたらどうかという話がありまして、どういうふうにそれに向けて議論していったらいいか。今まで部会が 3 つございますが、何れもこういったことに対応していく部会では無いので、できればここでプロジェクトなり、部会というものを正式に作って、あと 100 日ぐらいの議論を具体的に進めてはどうかと思います。新しくこの部会のメンバー募集という形で、もう一度広く町民に呼びかけてはどうかと思います。当面、議論したいこととしては、いつ開館行事をやるのかということ。それと内容としては、図書館関係のイベントとなると、私が思い浮かべるのはご覧のようなことで、勿論他にもイベントとかあると思いますが、このようなことを 1 日なり 2 日かけてやってはどうかなのというのが委員長の私案です。それでもう一度皆さんに伺っていきたいと思うんですが。

(委 員) かなりメニューを豊富にやったほうがいいと思うし、新しいメンバーを増やしていくっていいことだと思います。

(委 員) 私は谷川俊太郎さんを是非呼んで欲しいと前から言っているんです。小布施の新生礼拝堂で十数年前ぐらいでしょうか、谷川さんがチェンバロの方と演奏なされた演奏会と、谷川さんの語りがあったんですけども、それがすごく良かったんです。それに感動して、それから谷川俊太郎さんのファンになって戸隠に毎年聞きに行っていました。今中学生も谷川さんの詩をだいたい読んで歌ったりしていますので、身近に感じられる方だと思うんですね。

(委員長) 作家の講演会というところにあたると思うんですが、十数年前に見えたんで

すよね。小布施とはご縁はあると思うので、何か伝手はありますか？

(委員) 戸隠の方で『ありったけの会』という会を立ち上げて、毎年呼んでいたんです。戸隠に『ランプ』という古い喫茶店があって、そのマスターと親しくされているんです。それで谷川さんがご自分の絵本とか本とか、たくさん置いていて、それがコーナーになっているので、そちらの方をお願いしてみたり、と思っているんですけども。

(委員長) ありがとうございます。かなり具体的な話になりました。というように、私はこの部分でやりたいという人がいたら、是非、その人がリーダーになってみんなの力も合わせながら、実践部隊になって頂きたいなど。少数精鋭ですので、よろしくをお願いします。

部会というか、プロジェクトを立ち上げて進めていくとしたら。そもそもやるっていいことはいいですか？やるのが先にありではいけないですね。では、やることに決めて、実行委員会を発足させるということで。実践部隊で、結果的にはここにいる全体会の人たちが何らかの役割を担うようになると思うんですが、やはりリーダーが必要です。できればその辺を今日絞り込めたらと思うんですが。

(委員) 開館行事で開館式典みたいなものはまた別にやるんですよね。それとこれとはリンクするのか、させた方がいいのか、どうなのか。

(館長) それを踏まえて逆にプロジェクトを立ち上げるのであれば、僕も参加しますし、一緒に議論をしていきたいなと思います。同時進行もあれば、さっき委員長もおっしゃったようにひと月後だとか、一年間。プロジェクトとして一年間を開館イヤーにしたらどうなんだって聞いたことがあっていろいろなアイデアがあります。そういうのは、やろうと手を挙げている人で先ず揉んで会に落としてもらうというのがいいんじゃないかと思います。

(委員) そういうことをどんどんやっていって、定期的開催できていくようなものになれば本当にいいことだと思います。

(館長) 今まで図書館はサポーターの皆さんが企画持ってきて行っていた、今度は図書館自体が企画もすれば、逆もある。どんどん一緒になってやっていく、そういうことを実現していくのが必要かなと思う。そこまで議論していくとすごく面白いかなって思います。

(委員) 前からも話してきたのかもしれないですけども、新しい図書館は本も入りますが、交流の部屋もできるということで、そういうところを今後活用していく。講演か講習かわかりませんが、そのうちのひとつとして、図書館協会の宮下先生のお話などでも、新しい図書館は資料を時代に合わせて提供していくということでしたので、私としてはデジタル系のものを、従来とは違うイメージで小布施で企画しながら、新しい館利用というイメージで組んでいただいたら

いいなど。今後、講師を呼んでくるとか、男女共同参画事業で高齢者対象のそういう場の研究をやったのがあったのですが、そういうところと連携してみたらどうかと思います。

(館長) ここで今、委員長さんが出されたのを見ると紙芝居。普通の紙芝居もあれば、連写的な紙芝居もあると思うんです。それを面白くやっていくというのも手だろうし、いろんなアイデアが出てくると思うので、是非、どしどしそういうのが上がってくると面白いなあと思います。

(八木) それでですね、それこそオープンをいつにするかという話をまだ我々でちゃんと合意を得ていないと思っているんですけども。6月30日に、前日までに出来上がっていますけれども、外構も備品の搬入もそれから。本の運び込みも。それで、初めての貸し出しのシステムも動かし始めて、もちろん、図書館はできていますから、人を呼んだりというのはどんどんした方がいいと思いますけれども、本当に図書館としてきちりできるのかというと、非常に不安なものが私はあるんです、正直言うと。7月の初旬と仰いましたけれど、物理的にも普通不可能だと思うんです。かといって、準備期間で普通2,3ヶ月かかるとは思います、その間ただボランティアさんとか館の関係者だけが出入りするというのは勿体無いので、それこそ多目的に使って、イベントをどんどんしていくと。こっちは片やまだ本の整理をしているかも知れないけど、中にどんどん人を招き入れて、そういう風の中をもっと知ってもらおうというのもひとつあるかなと思ったんですね。出来上がったら、棚をはって、これやって、どんどん今日からというのをあまり急いでも、それは皆さんを焦らすだけだし、あんまり肩肘張らないでプレオープンみたいな形じゃないですけども、イベントをちょこちょこやって行って、入ったことのない人をどんどん中に入れるっていう、そういう考え方がいかなと思っていました。ちょっと規模は違いますけど、茅野の市民館の時にも、竣工してすぐはプレオープンだったんですよ。プレオープンだとそれこそ、本も入ってないし、美術品も入ってない。何もない時に人をどんどん入れちゃって、そこで、ちょこちょこイベントをする。人が集まるというのだけやっていて、そうするとみんな、こうしたらいいんじゃない？ああしたらいいんじゃない？と、だんだん意識が高まるんですね。そんな期間があっても、多分、小布施ならできるかなと思ったのですが、如何でしょう？

(館長) 面白いと思うんですけど、プレオープン、体力というか人の力がかなり要るので、その辺は、このプロジェクトなりで意見交換できればと思います。7月オープンするのは町民へのお約束なので、そこをまず考えなくてはいけない。そこに、今八木さんが仰ったような事は、ひとつの意見として議論していくのはありかもしれないですけど、前提は7月オープンということを考えないといけないかなとは思っています。

(八 木) 普通に考えて備品の搬入に一週間、それから本…。例えば閉架書庫とか調査閲覧室にはまだ入ってないかも知れない。とりあえず開架だけは開架して、でも一通りやれば一週間くらいかかりますよね。それで、その後運営のデモンストレーションに一週間から三週間。それこそ、夏休みにみんなが入る頃、一番頑張ってもその辺になっちゃうかなと思うんですけど。

(館 長) これはちょっとまだ、そうですねと言えないんですけど、持ち帰って色々議論したいと思います。

(委員長) いつ開館行事をやるかとか、一回で済ませないで半年くらいかけてやるか、そういうことのあり方も含めて、このプロジェクトで検討するという事で。結論としては、具体的な事を推進する実行委員会みたいなものを立ち上げるということに宜しいでしょうかね。

名前は開館行事プロジェクトでいいですか。それで、プロジェクトリーダーですよ。是非、若い人に任せたいと思うのですが、誰かどうですか。ここに人いない人問わずでいいんですけど、副とかはまた決めていけばいいですし。もし、この人がいいと言われれば館長と一緒に頼みにいきますので。

(委 員) 短期間で集中できる？割と忙しいのでは？

(委員長) 若い人はみんな忙しいです。力のある人にやって欲しいので、サポートは私たちも副の人もします。内容案も、この他にも沢山あると思います。ダンボール市というのは、今、全国各地でやっているんですけど、自分が不要になった本をダンボール一個分だけ持ち込む事ができる権利をもらって、お店を一日やって、本を販売するというミニ中古本市をみんながやるというイメージです。それでは、進捗状況をお願いします。

4. 工事進捗状況の報告 (ナスカ一級建築士事務所)

(八 木) 外側から見ても、中に鉄骨が建ち始めたのでいよいよ形が見えてきたと思います。2月末くらいから鉄骨を建て始めました。本日ミキサ車が来て、後ろの閉架書庫の屋根の部分、前の三角の部分なんです。腰の立ち上がりというか、ここまでの最後のコンクリート打ちをしました。外構工事を除く、今回の建物におけるコンクリート工事はこれで最後になります。今後は屋根、直線の梁で構成されておりますが、その上にさらに細かい、もや材と言うんですけど、屋根の下になる小さな土台、これも直線で構成されているんですけど、多面体の屋根をこれからあの上に乗せます。これは、多面体の数を多くすればするほど、Rに近づくという事で、相当準備期間苦勞して多面体を作りまして、それが来週辺りから運び込まれて来ていく予定です。3月いっぱい、もやが全部終わり、今度はその上に野地板を張っていきます。野地板を張って、その上に金属の屋根を置くと屋根下ができる感じになりますが、これが4月の半ばく

らいにはできると思います。今、6月末の竣工に向けて、後3ヶ月になりますので、いよいよ家具の打ち合わせを館長始め司書の皆さんと始めようとしているところです。

(委員長) どうもありがとうございました。質問ありますか？

5. 会議事項

・植栽について

(委員長) それでは、植栽について。ここで現状を知りたいのですが去年の秋頃から鉄骨の値上がりなどいろんな経過があって、結果的に植栽に向ける予算が足りない。ですから、開館の時点では、その部分は更地であるというお話を伺った記憶があります。それについて、今年なり来年なりの予算のつけ方とか、その辺りの方向性みたいなものを、分かる範囲でいいので教えていただけませんか？

(事務局) ではご説明させていただきます。外構につきましては、当初の予定通り行いますが、植栽の部分は当初の予定の木の部分は含まれておりません。ですから、二転三転していますが、最初は鉄骨材の値上がりの対応で必要最小限ということで、21年度予算で当初予定していた外構をやっていくと。ただし、植栽についてはそこまで出来ないという、そういった状況です。

(委員長) 木を植える可能性のある部分は何平方メートルくらいですか？

(八 木) 面積では言えないんですけども、最初私たちが赤松と言っていた時は30本くらいです。大きな赤松でも30本くらいは植えられるかなって思っていましたので、それに相当するような数。

(委員) 校庭に沿った南側が大体30メートルくらいで幅が42,3ということは約500平米ですね。それと、東側。

(八 木) 途中なだらかな階段を作っていて、階段と通路の間くらい。

(委員長) 南側が約500平米、プールとの間も500平米、1000平米あるとして300坪。今の説明だと木については、新21年度予算も予定はないということです。古谷先生のコンセプトは『森の中の図書館』だったのにとこの矛盾をどう考えたらいいかという課題があるんですけど、どちらにしても、予算がないというのは多分来年度も一緒だと思います。これについても、今日できれば部会なりプロジェクトを発足させるにして、何らかの具体的な一步を踏み出せないかなと思っています。いちばん簡単なのはお金を用意して木植えてもらえば良いんですけど、そのお金がない。それから、森といってもいろんな森がある。できるだけこの土地に根差した森、植栽がいいんじゃないかと色々考えて勉強したんですが「どんぐりの森プロジェクト」というのがあって、今日資料が用意できなくて申し訳ありませんが。趣旨は、どんぐりと言っても北海道から九州の方まで、何十種類もあって、その中でも例えば小布施なら小布施に自

生している一番ふさわしいどんぐりの実というのがあるらしいです。ケヤキとか、クヌギとか、ナラとか、コナラとか、ブナとかもそうなんですけどそういったもののどんぐりを拾ってきて植えて、芽が出たら屋外に植え替えて30cmくらいになったところで、植樹祭を行うと。そこを10年20年かけて雑木林にしていくというのが「どんぐりの森プロジェクト」です。これは科学的な根拠に基づいて研究実践している先生がいらっしゃるんです。宮脇昭さんという横浜国立大学の名誉教授の方で、信濃毎日新聞にも登場するおなじみの先生ですよ。全国、世界を飛び回って子供たちにどんぐりを蒔いてもらって、一年後に行って苗を植えると。大体どんぐりの木というのは、自生が強いので、5年くらいすれば林になり、10年すれば森になるそうです。このプロジェクト、まだまだ私は勉強中なんですけど、例えばこういったものなら指導料などのソフト料は多少かかるかも知れませんが、資材費程度でハード的な費用はほとんど0に近いです。それでいて、子供たちが命を育む命の授業にもなるし、理科の勉強にもなるし、腐葉土にして野菜を作る、花を作る、菊を咲かせるというのは個人にも連携する意味でとってもいいプロジェクトかなと思っています。予算がない、でも時間がある、学校が近くにあるという諸条件を勘案すると、この案はとっても有効じゃないかと思います。もちろん、これに絞ったわけではありませんが、そういうような具体的な事を研究したり、また、学校などと連携して具体化する動きをする事で、お金がないというのを不幸中の幸いとして、いい形で転化できないかなという事なんです。

(参 事) 先程から金がない、金がないと言われていますが、前々からお話しているように、21年度はどんな植樹をしていったほうがいいのか検討する年ですよ。ですから、金がないので22年度に持っていった訳ではないんです。やっぱり長期的なものを、今のどんぐりの話もありますし他の木を植えるという事もあるかと思いますが、みんなでもっと考えながら進めていく事が大事なんじゃないかという事で22年度になっていますので、その点ご理解頂きたい。

(委員長) ありがとうございます。町の方針として、一年間かけてどんな展開にしていくかを考える期間という事は、私たちにとっても、大事な議論の機会を頂けたという事になります。そこで、私のは一案に過ぎませんが、どんどんいい意見を出していくプロジェクトを発足させて、当初の「森の中の図書館」のイメージに近づけるようなものを作っていただけたらと思います。そういう事で、これもプロジェクトとして発足させるということでどうでしょうか？これもちょっと明確に、緑の部会みたいな形で設定した方が性格的にはいいかなと思いますがいかがですか。

(委 員) この前、松川の所に1mくらいの高さの松がいっぱいあるという話をしました。先月、松川の整備をした時、松2,30本くらい潰してしまったんです。ちょっと

見たら、まだ、2,30 本ずつあるので、もしこれを使えるのであれば。当然、松川は今整備し始めていますから、いずれまた業者が潰してしまうんですよ。それを出来るなら、これ許可とかは必要でしょうけれど、とっておいて植えれば、20 本くらい優にあると思います。

(委員長) 中々いい案だと思うんですが、そういった事に対する対応は、参事どのよう
にお考えになりますか。

(参 事) 前に設計事務所の方から赤松の話が出たときに、大方の皆さん、赤松は如何
なものかとおっしゃいました。樹種の選定を時間をかけていこうということに
なりましたので、原則的には赤松はありえないんじゃないかと考えています。
先程委員長から話がありましたように、落葉なり、季節の変化が感じられる樹
種の選定になってくると思います。

(委員長) ありがとうございます。どんぐりというのはひとつの案ですが、すでに、小
布施に自生している昔からのりんごを植えたらどうかという案や、桜の寄付の
話もあるようですので、そういったものも全部総合して、受け皿になって検討
する会議という事だと思います。こちらも部会長が必要ですが、是非誰か、私
がやりますっていう奇特な人いませんか。

(委 員) どんぐりって言うのは委員長言われたとおり、色んな種類あるんですよ。
カシやなんかもどんぐりで、全部固有の名前が付いてる訳ですね。その中で落
葉樹って事であれば、クヌギとかコナラとかその辺に絞られてくると思います。

(館 長) 皆さん結構下向いちゃって。さっきもそうでしたけれど、もしプロジェクト
をやるのであれば、まず、集まった皆さんで長を選ぶ事もありかなと思います。
こうやって、集まって委員長が選ばれたように。なんだかここで誰か誰かと
言うよりは、みんな集まった中で出てきたほうがいいと思います。

(委員長) では開館行事プロジェクトも植栽プロジェクトも一回皆さんで集まって、そ
の中で決めるというのが正当かだと思います。植栽も、22 年度に予算がつく可
能性もあるようですが、息の長い話としてプロジェクトを立ち上げてメンバーを
募集し、トップを決めて推進するという事でお願いします。

・これからの会議の進め方

(委員長) では最後に、これからの会議の進め方に入ります。今、選書、開館行事、植
栽、名前は兎も角、この 3 つに対して新しく委員会なりプロジェクトを作るこ
とになりました。続いて一番大事なのは、開館した後。平素の図書館運営を考
えていく住民参画型の部会なり委員会なりっていうのが、本当に大事だと思う
んですよ。イベントも大事ですけども、やっぱり本来の平時のことですね、そ
れについては今のところ、意見や具体的な策はありません。例えば図書館、子
育て、交流、情報の受発信という 4 つの機能がありますよね。こういった 4 つ

の機能別に部会を立ち上げるという案は、机上論としてはあるんですけど、必ずしもこれがいいとも言えないのかなとも思います。小学校未就学児以下とか、小中学生とか、年齢別に分けるというのものもあるかもしれませんが、どうやって開館後のソフトを魅力的なものにしていくか、住民参加型の仕組みを作るかということはこれからの、私たちのとても大事な役割だと思うんです。ただ、私もこれを書いただけで、なんら具体的な策はないんです。これについて今日具体的に決めなくていいですが、大事なポイントだと思います。建てたら最後、さようならじゃ、あまりにも寂しいので。そこからのスタートですしね。これについて何か思うことがあればどうですか？

(委員) 先程の開館後の活動とか開館前とか、どんな風な活動なのか実質的にもう少ししっかりした方が。個人的には自分自身もそこで何か連携したいという気持ちもあるんです。自分もやっぱり世代が近いと、わりと高齢者は時間がありそうで、意外と図書館に通ってくることも少ないから、そういう人達を連れ込んでくるようなイベントを考える。そこで住民の人達が図書館に行きたいと言うような方向に向ける。お手伝いとか、楽しみ会とか、そういうような事は考えています。

(委員) 子育てとか若いお母さんは寄ってくると思うんですよね。でも、これから急激に増えていく高齢者に対するの対策として、さきほど仰ったように、小布施百話の読み聞かせとか、紙芝居とか。そういう昔の人が好むような物をメインに持って行って、お年寄り達が気軽にとっつける場所にしてもらえたらどうでしょうかと思っています。それと、地域の交流。

(委員) 魅力的な図書館運営の部会と言われてはいますが、新小布施町立図書館運営ビジョン案というのがありまして、その中で運営委員会のこれから、運営委員会公募とあるんです。それで、私はこの運営委員会を早目に立ち上げて欲しいと言うような話をしました。運営委員会というのは、もっと大切な役割を果たしていくと思うんですよね。やはり、これからの図書館の生きるも落ちるも運営委員会が、一つの方法になってくるんじゃないかと思うので。そういう点で、その運営委員会を立ち上げるにあたって、どういう運営委員会にするのかというのがここで話し合いをする事なんじゃないかという風に思っていたんです。

(委員長) ありがとうございます。開館後の運営については、住民参加型の運営委員会を発足させて、というのが今までの議論の中で提案されています。そのあり方というか発足の仕方を、これから開館までの間で議論していくという事です。できるだけ早いほうがいいですよ。

(委員) 私が思っていた運営委員会というのは、出来れば4月頃からでも発足して。先程開館行事の部会が作られるような話でしたけど、それは運営委員会の中の1つのプロジェクトのような形でやっていくものなのかなというイメージがあっ

たものですから。だから、早めに立ち上げて、図書館の運営全般に関するものを、その部会の中で話し合っていくべきかなと感じます。

(委員長) そういった過去の話し合いを、私も認識不足のまま提案してしまって申し訳なかったです。今、現状は建設委員会でやってきていて、図書館ができた後に本格稼動するのが運営委員会だとすれば、これから開館までの3ヶ月は、今の建設委員会を運営委員会に取り替えて、開館まで行って、そこで一度解散した上で、運営委員会を新たに発足させるというのもありかと思ったんですけど、その辺どういう風に議論したらいいですかね？

(委員) 委員長の私案が出てきて、皆さん大方頷いているような所見と、今までやってきた流れを一旦ここで言葉の上でいいから閉じておいて、新しく再スタートみたいな形をとったほうがいいと思います。住民参加で図書館運営を検討しようというのが反映しにくくなるといけないので、規範となるものをきちっと踏まえて。それが前から言われている所謂、図書館の運営委員会という意見だと思うんですね。それがあって部会の活動がある、そのような形にして。

(委員長) 規範となる運営組織を開館を見越して今から作っていくって事ですかね。

(委員) 今のお話と若干通じるかもしれませんが、改めて4つの理念に沿った部会を作るとか、それを年齢別にとか、そういう風にしても、結局は不備になってしまうような気がするので、運営委員会のようなものが必要だと思います。それで、具体的な案として、例えば、まちづくり委員会で調査すると、色んなグループが200もあると。その中で子育てに関係しているグループの方も沢山いらっしゃるってことですね。そういうグループの人たちに運営を委ねていく事によって、その人たちにまた来て頂く、結果的に色んな交流になったりする。そういう事も考えていった方が現実的なのかなって感じがしました。

(委員) 私達はおはなしの会の方をもっとメンバーを増やして、充実させて、活動を展開させていきたいと思っているんですが、メンバーが中々集まらなくて気持ちだけ膨らんでいく状態です。

(委員長) それぞれの努力は本当に必要だと思うんですけど、色んな方に声をかけて、担っていただくにつけても、図書館の規範になる運営部会というのをまずベースに置くのが必要かと思います。この会議も建設運営部会としてここまで来ているんですけど、一つの区切りとしては3月の年度区切り。建設運営委員会をここで終わりにして、図書館運営委員会と改めて、募集する事もいい節目かとも思うんですよ。または、このままずっと行って開館を目処に、開館したら運営委員会にするというのもありかと思うんですが、その辺、どうですか？

(館長) いきなり皆さんがいなくなるような気がして困るんですが、皆さんが仰った事は図書館にとってはありがたい事だし、検討しなくてはいけない部分だと思います。建設運営委員会は名前が変わって運営委員会になるかもしれませんが、

図書館としての運営を考えていくんだと、新たな募集としてはあると思うんです。今いらっしゃる皆さんは、今度は頭を一回くらい捻った考えで、参加していただく。と言うのは、今度は皆さんがどういう風に使いたいかがメインになる。そこに私達運営する側もお答えしながら、「こうしたらどうでしょう」と一緒に議論していく場だと思っています。町報なりわくわく通信なりで、町民の皆さんで発足された委員会として、委員長さんの名前で新しく図書館の運営をしていくんだという所を出していきましょう。その手伝いや準備だったらどンドンやるし、していかなくちやいけないと思っています。

(委員長) 新しい人たちを募集しながら、具体的な3つの部会の4月以降の事を考えるという事で、実態としてはこの組織そのものは維持して新しい名称にしたらいいかと思います。ただ、今いきなり出たので私も戸惑っているんですが、確かにこの部会をいつ終息させるかって事はそろそろ決めるべきだと思います。明らかに言えるのは、建設って名前が付いている以上は、7月1日以降はこの存在意義は、外構の問題があるとはいえ、ないと思うので、7月1日以降は運営委員会という事に、と私は思います。建設は7月まである訳ですから、それまではこの建設運営委員会が責任を持つと。そして新しい人を入れる。そして、7月1日開館以降は運営委員会として担ってもらって事で、どうですかね？

(館長) 名前が決まってくるから、今度それを冠にした、運営とかサポーターを充分に組織化していくって事ですね。それは、今委員長さんが言ったような、7月までいってオープンしたら即運営委員会なのか。どこかでクロスしていかなければいけないですよ。募集するのであれば、募集はかけていながらクロスしていけないと。建設の事をなにも分かっていなくて急に運営だのなんだのというのは違うんじゃないかと思うんですね。やっぱりこの一年以上話し合っこそ、ある程度、共有する部分。一つの例をあげれば、まちづくり委員会が検討委員会から始まって、実際まちづくり委員会に決定した時は新たに募集をし直して、80何名の方が決まりました。そういういい事例があるから、そういうところからも学んでいった方がいいのではないかなと。

(委員長) では、その辺の発足以降の事も見越した住民参加型の委員会の発足の仕方については、もうちょっとみんなの宿題として4月くらいまで議論して、具体的には5月くらいから、2ヶ月くらいの準備期間を経て運営委員会として、正式に独立立ちする。というような、のりしろをしっかりとつけて、私達の議論の遺産をしっかりと引き継いでもらう形にしていきたいと思っています。

以上で宜しいでしょうかね。ありがとうございました。4月の全体会までに先程の選書の関係も、皆さんに何らかの形で通知というか報告。準備会としての提案をする事になっていますので、引き続き建設のほうも見守りながら、図書館に気持ちを離さずに、いい開館に向けて、皆さんご協力お願いします。どう

もありがとうございました。

6. 閉 会